

横浜市インフルエンザ流行情報12号

横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所

- 第4週(1月19日～25日)にピークを迎え、その後は減少しましたが、第9週(2月23日～3月1日)から再び増加に転じ、第11週(3月9日～15日)まで増加しました。第12週(3月16日～22日)は再び減少し、定点あたり報告数 14.94 でした。
- 迅速診断用検査キットによる型別の判定では、ほとんどが B 型です。
- 学校等における集団かぜは2009年3月21日までに施設閉鎖 12 施設(12 施設)、学年閉鎖 20 施設(21 学年)、学級閉鎖 141 施設(197 学級)の報告がありました。
- 今シーズンに入り、病原体定点医療機関の検体からインフルエンザウイルスが174件分離・検出され、その内訳は、AH1(ソ連型)75、AH3(香港型)40、B型 59 でした。
- AH1(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った101件すべてにオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った28件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

図1 横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数

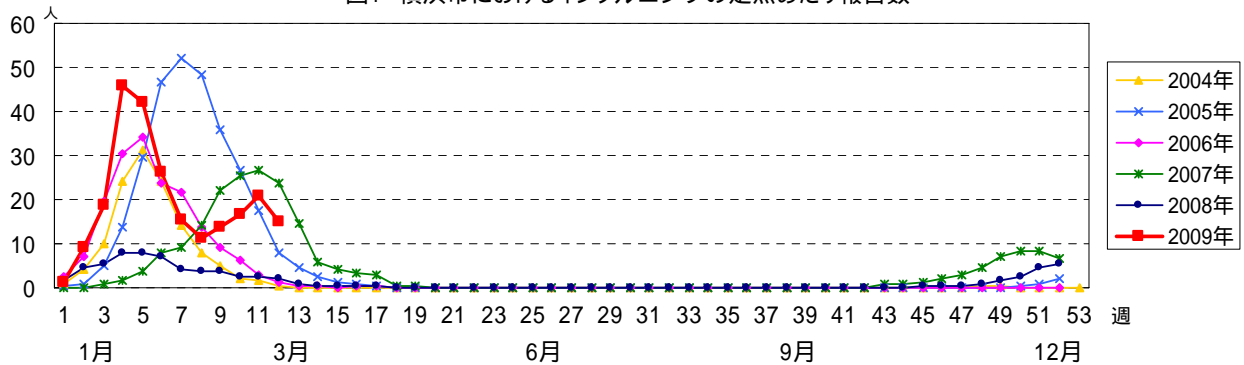
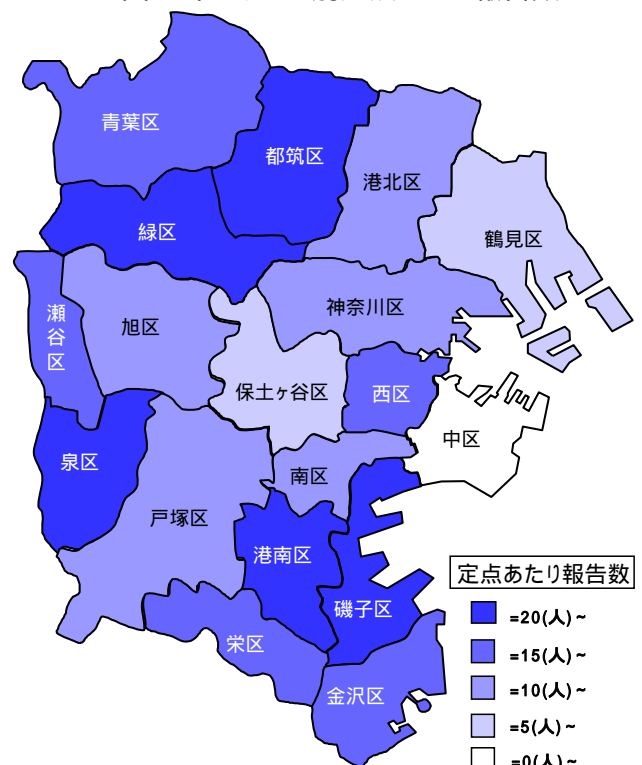


図2 第12週 区別定点あたり報告数



横浜市では、過去 6 年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週(12/1～7)に流行の目やすとなる「1.0」を超え、2009年第3週(1/12～18)に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第4週(1/19～25)にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。

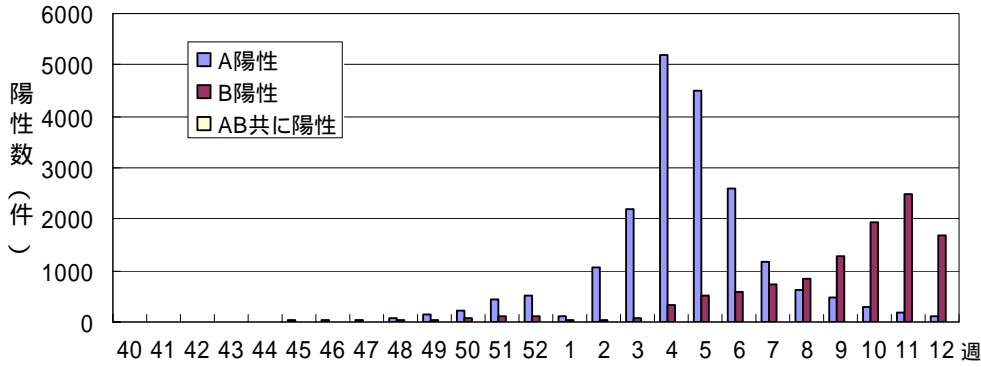
その後は減少しましたが、第9週(2/23～3/1)から再び増加に転じ、第11週(3/9～15)まで増加しました。

しかし、第12週(3/16～22)は再び減少し、定点あたり報告数 14.94(前週の0.7倍)となっています(図1)。

区別では、磯子区(28.40)、緑区(23.00)、泉区(23.00)、港南区(22.25)、都筑区(20.63)、栄区(18.80)、青葉区(16.00)、西区(15.60)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません(図2)。

また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力での報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定(患者発生報告書に記載いただいたものについての集計)をグラフに示しました。2009年第12週では、A型105件、B型1673件、AB型共に陽性11件の報告があり、ほとんどがB型です(図3)。

図3 横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



全国でも、インフルエンザ報告数は第2週に注意報レベルの流行となり、第4週に警報レベルの流行となった後減少しましたが、第9週から第11週にかけて増加が続き、第12週は定点あたり報告数15.63と前週に比べて減少しています(表1)。

都道府県別では、山形県(41.8)、宮城県(37.0)が警報レベルの流行となっており、次いで、新潟県(28.8)、石川県(27.2)、鹿児島県(26.9)、富山県(25.0)、秋田県(24.8)、宮崎県(24.8)、埼玉県(23.7)、千葉県(23.6)の順となっています。

報レベルの流行となっており、次いで、新潟県(28.8)、石川県(27.2)、鹿児島県(26.9)、富山県(25.0)、秋田県(24.8)、宮崎県(24.8)、埼玉県(23.7)、千葉県(23.6)の順となっています。

表1 インフルエンザ定点あたり報告数の推移

定点あたり患者報告数	第8週 (2/16-2/22)	第9週 (2/23-3/1)	第10週 (3/2-3/8)	第11週 (3/9-3/15)	第12週 (3/16-3/22)
全国	12.06	13.50	14.87	16.50	15.63
東京都	7.61	8.98	11.60	14.40	13.75
神奈川県(全県)	11.38	13.13	15.71	18.93	14.94
横浜市	11.39	13.64	16.67	20.69	14.94
川崎市	10.04	9.87	14.49	16.98	13.40
県域(横浜・川崎を除く)	11.88	13.86	15.19	17.90	15.53

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等は、過去4シーズンと比べて、最も早く2008年10月20日に初発の報告がありました。いったんおさまりかけましたが、2009年2月23日ごろから再び増加し、3月21日までに施設閉鎖12施設(12施設)、学年閉鎖20施設(21学年)、学級閉鎖141施設(197学級)の報告がありました。(表2)。

区別では、栄区以外の17区から報告があり、都筑(21施設)、青葉(20施設)、緑(19施設)、保土ヶ谷(16施設)、旭(15施設)、鶴見(10施設)、神奈川(10施設)、泉(10施設)、金沢(9施設)、港北(8施設)、中(7施設)、磯子(7施設)、港南(5施設)、瀬谷(4施設)、南(3施設)、戸塚(3施設)、西(2施設)となっています。(施設数は延べ数です。)

表2 集団かぜ等による施設閉鎖

区分	閉鎖施設数			閉鎖延べ			閉鎖対象者		
	施設	学年	学級	施設	学年	学級	在籍者	患者	欠席者
幼稚園	8	2	27	8	2	39	2632	905	863
小学校	2	12	103	2	13	147	6723	3019	2225
中学校	1	5	10	1	5	10	1646	416	304
その他	1	1	1	1	1	1	661	173	166
計	12	20	141	12	21	197	11662	4513	3558

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

横浜市内の最新の流行情報については、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html> をご覧ください。

インフルエンザ定点

インフルエンザの流行状況を把握するために、横浜市では小児科定点88か所を含む145か所(全国約5000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」と指定しています。

2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況について

2008 年第 46 週以降の病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は 174 件あり、その内訳は、AH1(ソ連型)が 75(43%)、AH3(香港型)が 40(23%)、B 型が 59(34%)となっており、B 型の割合が増えています。どのサブタイプ(亜型)のウイルスも継続的に分離されていますので、耐性株の関係もあり、今後の動向に注意する必要があります。

集団かぜの検体に関しては、ウイルスの分離・検出数は前週と同じです。

AH1(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った 101 件すべてにオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示唆する遺伝子変異が認められました(オセルタミビル処方前に検体採取)が、アマンタジン(商品名:シンメトレル等)耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った28件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められましたが、オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

B 型分離株に対しては薬剤耐性に関する遺伝子解析は行っていません。

亜型	調査方法	分離ウイルス株数	薬剤耐性検査数	オセルタミビル耐性遺伝子検出数	アマンタジン耐性遺伝子検出数
AH1(ソ連型)	病原体定点	71	71	71(100%)	0(0%)
	集団かぜ	26	26	26(100%)	0(0%)
	HC 他	4	4	4(100%)	0(0%)
AH3(香港型)	病原体定点	30	23	0(0%)	23(100%)
	集団かぜ	4	4	0(0%)	4(100%)
	HC 他	1	1	0(0%)	1(100%)

(1) 今シーズンの病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

月集計および週数	インフルエンザ検出状況					
	A 型				B 型	
	H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
	分離	PCR*	分離	PCR*		
2008 年第 46 週(11/10~11/16)	-	-	-	1	-	-
第 47 週(11/17~11/23)	-	-	-	1	-	-
第 48 週(11/24~11/30)	-	-	-	-	-	-
第 49 週(12/1~12/7)	3	-	3**	2	2**	-
第 50 週(12/8~12/14)	2	-	3	3	1	-
第 51 週(12/15~12/21)	3	-	2	2	1	-
第 52 週(12/22~12/28)	5	-	2**	-	3**	-
2009 年第 1 週(12/29~1/4)	-	-	1	-	1	-
第 2 週(1/5~1/11)	7	2	2	-	-	-
第 3 週(1/12~1/18)	15	-	3	-	1	-
第 4 週(1/19~1/25)	9	-	4	-	2	-
第 5 週(1/26~2/1)	11	-	4	-	1	-
第 6 週(2/2~2/8)	7	-	-	-	4	-
第 7 週(2/9~2/15)	3	1***	2	-	7***	-
第 8 週(2/16~2/22)	3	-	1	-	3	-
第 9 週(2/22~3/1)	3	1	-	-	8	-
第 10 週(3/2~3/8)	-	-	2	-	6	-
第 11 週(3/9~3/15)	-	-	1	-	11	-
第 12 週(3/16~3/22)	-	-	-	1	7	-
第 13 週(3/23~3/29)	-	-	-	-	1	-

*:ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

** :うち 1 件は、1 人の検体から AH3(香港型)と B 型の両方が分離されました。

*** :うち 1 件は、1 人の検体から AH1(ソ連型)が遺伝子検査で検出され、B 型が分離されました。

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜからのウイルス分離・検出状況

検体採取週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			PCR		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2008 年第 49 週 (12/1 ~ 12/7)	1	1 幼稚園	3				3		
2008 年第 51 週 (12/15 ~ 12/21)	1	1 中学校	5			4			1
2009 年第 4 週 (1/19 ~ 1/25)	9	2 幼稚園	8	7			4		
		5 小学校	19	11	2	2	11		
		1 中学校	1		1			1	
		1 高等学校	1						1
2009 年第 5 週 (1/26 ~ 2/1)	3	2 小学校	7	5	1		3		
		1 中学校	1						
2009 年第 6 週 (2/2 ~ 2/8)	1	1 小学校	1	1			1		
2009 年第 7 週 (2/9 ~ 2/15)	1	1 小学校	5	2			1		
2009 年第 10 週 (3/2 ~ 3/8)	1	1 小学校	4			3			1

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2009 年 3 月 31 日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離・検出状況は、AH1(ソ連型)2700 例、AH3(香港型)1277 例、B 型 834 例です。
詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

(参考)

厚生労働省:インフルエンザ Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/07qa.html>

国立感染症情報センター:インフルエンザ Q&A

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html>

横浜市健康福祉局 健康安全課 (TEL:671-2463)
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)
検査研究課ウイルス担当 (TEL:754-9804)